

代表質問に立つ、大山とも子議員(9月28日、都議会(写真左)、都に放射能対策を強化するよう申し入れる共産党都議団(9月15日、都庁)



放射能から子ども守れ

大山都議が
代表質問

都議会第3回定例会で、日本共産党都議団の大山とも子幹事長が代表質問をおこない、放射能の測定と除染対策、被災地からの避難者支援、原発セロへの転換・自然エネルギー促進、防災対策強化などを、石原知事にきびしく迫りました。



福島からの避難者から「ありがとう」のメール

「強い姿勢で話されている大山さん、かっこ良かったです!」——福島県から都内に避難している若いお母さんが、小学生の子どもを連れて日本共産党の代表質問を傍聴し、感想を大山都議にメールで寄せてくれました。

大山都議は「避難生活が長期化し、将来の展望も見えず、多くの方が心身ともに疲れ果てています」と実情を紹介。孤立防止など避難者への支援拡充を迫りました。

お母さんは、「都議会の生の現場はびっくりしました」「傍聴しにきたお母さんたちは、石原都知事の返答の言葉に、小さな声で、ヒドイ、と言っていました」「大山都議の代表質問は、国民の声を反映させた内容」「ありがとうございました!」と記しています。

対策強化求める

日本共産党都議団は今後も、ホットスポットを発見する詳細な測定、国待ちではない一刻も早い除染の実施、食品の安全対策強化を求めています。

大山都議は、こうした調査結果をはじめ、牛肉からセシウムが基準値以上に検出され、それが給食に使用されていた事実などを指摘。低い放射線量でも呼吸や食べ物を通して体内に入り、内部被曝による晩発性障害を引き起こす危険を直視して、きめこまかい測定と必要な除染をおこない、放射線の影響をうけやすい子どもや妊婦の命と健康を守りぬくことを求めました。

内部被ばくの危険 直視を

都の対策は不十分
石原知事は、「総力をあげて放射性物質への対策を進めている」と答弁しました。しかし実際は、都民と日本共産党都議団が要望した結果、測定体制などは若干前進したものの、都立学校の測定と除染、給食の食材の測定への支援を拒否するなど、都の対策はきわめて不十分です。

そのなかでも福祉保健局長は、都内でも放射性物質が付着しやすい場所では線量が

ホットスポット調査 すすめています

共産党都議団
清水区内の保育園で放射線量を測るため、都議会(9月28日、都議会)



日本共産党都議団は、都内128カ所の放射線測定(5月)につづき、下水処理施設、都内東部地域の364カ所の測定、東部地域の保育園・幼稚園の敷地内等114カ所、さらに世田谷区をはじめ各区市、奥多摩町などの測定・調査を実施し結果を公表しています。

ご意見・ご感想をお寄せください 電話03(5320)7270, FAX03(5388)1790



清水ひで子
八王子市選出



大島よしえ
足立区選出



古館 和憲
板橋区選出



あぜ上三和子
江東区選出



吉田 信夫
杉並区選出



たぞえ民夫
世田谷区選出



かち佳代子
大田区選出



大山とも子
新宿区選出